



Global Studies Initiative
The University of Tokyo

グローバル・スタディーズ・セミナー
「グローバル・スタディーズの課題」シリーズ

第7回

「世界史／グローバルヒストリー研究の 意味、可能性と難しさ」

羽田 正（東京大学東京カレッジ・カレッジ長）

司会 伊達聖伸（総合文化研究科 地域文化研究専攻）

討論者 田辺明生（総合文化研究科 超域文化科学専攻）
國分功一郎（総合文化研究科 超域文化科学専攻）

使用言語 日本語

日時・会場

2020年11月17日（火） 14:55 - 16:40

Zoom Webinar（下記URLからご登録ください。）

<https://bit.ly/2ThLZQd>

要旨

『新しい世界史へ』（岩波新書、2011年刊）を構想してから10年の歳月が過ぎた。この間、二つの国際共同研究に携わるとともに、世界各地で自分の考えを語る機会を何回か持った。これらの経験を経て、世界史／グローバルヒストリー研究（この二つの術語の意味の違いについては、当日整理して示す）の有する意味、可能性と難しさについて、私なりに考えを深めることができた。今回は、それらのうちから特に、1. 研究者の立ち位置、2. 研究発表の言語の2点について報告し、出席者と意見交換をできればと考える。なお、報告の内容が『グローバル化と世界史』（東大出版会、2018年）ですでに論じた点とある程度重なることをあらかじめお断りしておきたい。

主催 東京大学グローバル地域研究機構 (IAGS)